

答辞

冬の寒さもようやく遠のき、やわらかな日差しが心地よく、春の訪れを感じる季節となりました。本日は私たちのために、コロナ禍という状況のなか、このような素晴らしい式典を挙げていただき、まことにありがとうございます。また、御多用にもかかわらず御来賓の皆様より、お祝いのおことばをいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

思い起こせば四年前、これから始まる大学生活に不安と期待を抱きながら、山梨大学の一員として新しい一歩を踏み出しました。入学した当初は慣れない土地で右も左もわからずに戸惑うこともありましたが、多くの方々との出会いや支えのおかげで、恵まれた環境のなか学業に専念することができたと実感しております。

私には小学生の頃から教員になりたいという夢があり、自分自身が好きな数学を学びながら教育に関する専門知識を身につけたいと思い、教育学部科学教育コースに入学しました。実践的なカリキュラムにより、学生から教育者への階段を一つひとつ踏みながら、教員として活躍するための力を身に付けていきました。また、山梨大学教育学部の教育の特徴である少人数グループワーク型基幹授業では、コースを超えてグループ活動をしながら主体的な学びを展開していくことができました。

大学生活の中で私自身を成長させるきっかけとなったのは、教育実習での経験と科学教育コース数学教育系の数学教育ゼミに所属したことです。教育実習は、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、例年通りの実習とはいかない中で、附属学校園と公立協力校に受け入れていただきました。教員という職業の魅力だけでなく、責任感や使命感、教員になるにあたって足りていないことまでも実感することができました。子どもたちと真剣に向き合うほど課題が浮かび上がり、悔しい思いをしましたが、仲間と助け合う姿勢や自分を見つめ直して次へ生かす努力をし続ける姿勢の大切さを学ぶことができました。

科学教育コース数学教育系の数学教育ゼミでは、大学の先生、大学院生の方、ゼミの学部生と数学教育に関して様々な意見を交わしました。私は、算数が日常事象と結び付いていることを児童に実感してもらうために、関数の考えに焦点を当てた「算数科における比例と反比例を関連付けた学習指導」の研究を行いました。数学を学習するよさは何か、子どもたちが躓きを感じている点はどこかを明らかにしながら研究を進めました。教材開発や教材研究は簡単なことではありませんでしたが、先に述べたような多種多様な意見を交流する環境があったからこそ考えを深めることができ、自分で開発した教材を実際に授業するという貴重な経験をすることができたと思います。

大学生活で得た知識や経験、仲間との繋がりは将来の糧になると確信しています。四月から新しい環境でそれぞれの道を歩むこととなりますが、山梨大学で学んだことを基盤に、降りかかる困難に打ち勝ち、飛躍し続けることをここに誓います。

最後になりますが、これまでご指導いただいた先生方、ともに学生生活を過ごした仲間たち、支えてくださった家族、これまで関わってきた多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。山梨大学の更なるご発展と大学関係者の皆様、並びに配信にてご覧になっている方々のご健勝・ご活躍をお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和4年3月18日

卒業生代表

教育学部 科学教育コース 高橋なつめ